

令和4年度事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

1 事業年度内の理事会・総会開催概要

①総会

- ・令和4年5月25日
開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム
出席者数：9名（うち評決委託者3名）／正会員数10名

<報告事項>

第9期事業報告・第10期事業計画について

<決議事項>

第9期収支決算について

②理事会

- ・令和4年4月26日（みなし決議）
出席者数: 3名

<決議事項>

第1号議案 第9期収支決算について

第2号議案 第10期事業計画案および予算案について

第3号議案 社員総会に付議すべき事項

- ・令和4年6月23日（みなし決議）
出席者数: 3名

<決議事項>

第1号議案 代表理事の選定について

第2号議案 代表理事の報酬について

- ・令和4年9月16日
出席者数: 3名

<決議事項>

第1号議案 ガバナンス及びコンプライアンスに係る諸規程の制定について

第2号議案 コンプライアンス担当理事の選定について

第3号議案 金融機関からの借り入れについて

第4号議案 休眠預金等活用事業における資金分配団体として採択された場合における一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）との契約について

<協議事項>

第1号議案 雲南市との委託契約にかかる精算処理の瑕疵への対応について

第2号議案 第10期事業計画遂行状況およびその改善について

- ・令和4年10月3日（みなし決議）
出席者数: 3名

<決議事項>

第1号議案 山陰合同銀行との手形貸付（つなぎ融資）について

- ・令和4年11月22日（みなし決議）
出席者数: 3名

<決議事項>

第1号議案：白石理事との業務委託契約締結の承認について

- ・令和4年12月25日（みなし決議）
出席者数: 3名

<決議事項>

第1号議案 山陰合同銀行とのカードローン契約の承認について
第2号議案 日本政策金融公庫との融資契約の承認について

2 事業の概要および成果 別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施 場所	事業実施の期 間 (契約期間)	従事者数	受益 対象者数	事業費 (単位：円)	
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南 市内	R4.4.1～ R5.3.31	4名	60名	経常収益 経常費用 収支合計	10,329,000 9,367,714 <u>961,286</u>
森あそび プラット ホーム	全国	R4.～R5.2.28	4名	40名	経常収益 経常費用 収支合計	3,777,131 4,259,033 <u>▲481,902</u>
森あそび 雲南	雲南 市内	R4.～R5.3.31	4名	25名	経常収益 経常費用 収支合計	7,870,000 8,318,952 <u>▲448,952</u>
講師派遣	全国	随時	1	50名	経常収益 経常費用 収支合計	93,000 1,100 <u>91,900</u>

②その他の事業

	データプラット フォーム事業	研修受入事業	業務代行事業
経常収益	0 (※)	395,000	237,600
経常費用	▲1,999,907	▲344	0
収支合計	▲1,999,907	394,656	237,600

※その後、確定のずれこんでいた補助金約380万円が令和5年6月に入金された。

NPO法人おっちラボ

第10期事業報告 (2022年4月～2023年3月)

(参考) 第10期事業概要

Our VISION

地域に関わる人と共同体の可能性を形にし続ける自治のまち雲南

Our MISSION

多様なチャレンジャーのコミュニティと挑戦の機会をつくり、人の可能性を解き放つ

領域Ⅰ：若者チャレンジ人材育成

対象：雲南に関わるチャレンジャー(=始動者)
目的：起業家精神を育み地域の進化の実証実験

スペチャレ・ホープ
ソーシャル・ビジネス
への伴走支援



チャレンジャー
コミュニティ形成
チャレンジャー間の
相互支援の促進

領域Ⅱ：地域運営組織2.0

対象：地域運営組織（雲南、近隣地域）
目的：人の可能性の芽を伸ばし活かせる地域に

地域経営カレッジ
雲南の地域自主組織の
人材育成を補助

地域運営組織2.0
地域運営組織による
遊休資源活用を
を休眠預金で支援

領域Ⅲ：地域課題解決のためのプラットフォーム

対象：ローカルベンチャー・地域運営組織・地域住民
目的：課題と遊休資源を可視化し、データに基づく自治を可能にする
i) データプラットフォームの実証実験を①木材流通、②森林資源、③獣害対策の分野で実施
ii) 遊休資産を次世代につなぐ仕組みの検討

領域 I -1. スペシャルチャレンジ・ホープ事業における支援

- ①申請者伴走支援
- ②採択者の伴走支援
- ③スペチャレ・ホープに向けた新体制の検討
- ④スペチャレ・ホープ次年度の事業説明資料の作成

- 平成30年度より雲南市が開始した雲南スペシャルチャレンジ（以下スペチャレ）・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資や寄付、出資と雲南市からの補助金の同額マッチング（上限200万円）および保証料・利子補給を行うものである。
- 昨年度同様、おっちラボは事務局を務めるとともに、応募者に対し応募申請前のプロジェクトのブラッシュアップ支援、および採択者に対しアドバイザー等による伴走支援を行った。

R 4 年度実績：採択者は3名。いずれも平均9.6回は壁打ち等の打ち合わせを個別で実施



	プランの詳細	拠点	ビジネスモデル	面談回数
妹尾慶さん 空師の育成事業	対象：特殊伐採に興味を持つ若手世代 実施サービス：空師育成プログラム、空師事業の告知・宣伝事業	雲南全域	✓ 特殊伐採施業を基本の収入源にしつつ、処理案件の増加を見込む ✓ 育成事業で施業人員を増やし、処理案件増加へ	計 14 回
佐佐木瑠美子さん LDへもきちんと療育できる放課後等デイサービス事業	対象：発達障がいを持つ幼児～未就学青年 実施サービス：集団療育×個別療育による個別化した療育支援	雲南全域 その他 周辺市町村	✓ 国による保護者利用料金補助あり ✓ 1人平均9人の利用者がいれば安定的に事業運営できるビジネス	計 8 回
長谷川さん/杉村さん 稼ぐ力をデザインしたプログラミング教室	対象：幼児～高校生 実施サービス：プログラミング教室運営 プログラミングコンテスト事業	雲南全域 出雲市	✓ 学生から受講料をもらうビジネス ✓ 独自のプログラミング大会の運営は企業協賛により実施 ✓ ゆくゆくは実践の場として企業から案件受注を行い成果報酬を得ることも	計 7 回

「空師の育成事業」 妹尾慶さん 3月時点の実績報告



次世代の空師を4月から雇用。空師の拠点も7月に竣工。



空師という職業を広めるため
多くの地域イベントに参加。

スペシャレを事業をきっかけに、空師という職業の宣伝・PRも兼ね、多くのイベントに参加しました。

民谷宇山「草刈応援隊」/いわくまイベントの参加/アウトドアイベントSTANCEの出演(体験ブース)/民谷宇山「あわいの森」イベント出演...

今年度、イベントで知り合った方を
新たなメンバーとして雇用予定。

イベント出演をきっかけに空師を知って興味を持った林業大学校の学生をアルバイトとして受け入れました。

2月からアルバイトとして試用期間の位置づけで雇い入れ。いよいよ4月には正式に空師として一緒に現場で作業を行っていきます。実質の「次世代の若手」となります。

来年度は空師が集う拠点を完成させ、
空師の育成と宣伝をどんどん仕掛ける

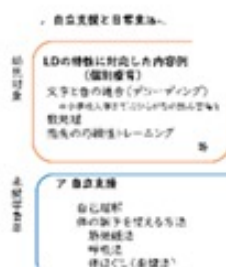
次年度の目標はスペシャレでも発表した
空師を育成・宣伝する拠点の完成。

11月の着工でやっと7月に完成の目途が立ちそうです。バーのような場所もつくり、そこで空師がバーテンダーをしながら林業の魅力を語るようなイベントができそうです。

「放課後等デイサービス事業」 佐佐木瑠美子さん 3月時点実績報告



いよいよ夢である開所へ。目標は15名の継続利用者。



幼児発達支援と
未就学青年発達支援が新たに可能に。

県の事業申請の際、今回開所する放課後等デイサービスでは、新たに
■幼児発達支援
■未就学青年発達支援
両方の支援サービスが可能だとわかり、事業内容を両者に対応できるよう変更しました。

人員確保について、延べ15名の方に
スタッフとして在籍してもらうことに

自分たちが目指したい、集団療育+個別指導による療育を兼ね備えた放課後等デイサービス事業の開所にあたり、スタッフを平均6名程度の在籍する必要があり、職員集めに奔走しました。これまで多くのイベントを実施して事業の理解者が多く生まれたおかげもあり、無事延べ15名のスタッフに在籍いただくことができました。3月中旬より受入れ開始予定です。

目標は広報宣伝。
継続利用者6名→15名へ。

黒字に転向するために継続利用者15名を目指します。

現在3月中旬開所時点で6名程度の継続利用者を見込んでいます。15名を雇入れた状態で継続的に事業運営していくためには7月末で15名の継続利用者が必要ですのでそれに向けて、各地域に相談支援事業所にパンフレット等を置く予定です。

「稼ぐ力をデザインしたプログラミング教室」杉村さん/長谷川さん 3月時点の実績報告



うなんんプログラミングFESの開催。出雲校も開校へ。



雲南拠点に加え、出雲校を開校。

雲南拠点の学習の質・サービス価値を維持した状態で、出雲校を開校。
2022年度12月実績で体験者数115名で入会者31名のサービスとなりました。

2023年4月末時点で、体験者数190名／入会者50名を目指します。



プログラミングFESの開催。
子供たちの成長を見える化する仕組みに。

2022年11月20日うなんんプログラミングFESを開催。多くの協賛企業を得ながら
初開催にして来場者198名を記録しました。

プログラミングを通した子供たちの成長を多くの大人に
見える化する仕組みとして2023年度も継続実施予定です。



第1回うなんんプログラミングFES PR動画



今後は保護者との
双方向コミュニケーション機会をつくる

次年度の目標は保護者との
コミュニケーション機会の創出です。

プログラミングを通した子供たちの成長を可視化してお伝えする仕組みを考えています。
技術習得のステップアップがより伝わるような成果指標など導入していきます。

申請前事前勉強会の実施

採択者の伴走支援...採択者全員に平均9.6回以上の壁打ちやMTGの機会を設けたほか、希望者には信用保証協会職員による個別面談の機会や、山元氏による事業内容のアドバイスを実施。

3組における伴走支援中の成長

- ・妹尾さん：不特定多数に向けた発表で自分の想いを伝える力の獲得
- ・佐佐木さん：様々なネットワークを使って実現するという体験
- ・長谷川さん/杉村さん：表現する力を子供たちに獲得してほしい思いの言語化

<主な成果>

- ・妹尾慶氏：新規事業として空師の広報宣伝事業を展開。
 - ・（株）エンター：杉村氏／長谷川氏：伴走期間中に（株）エンター設立。
 - ・佐佐木瑠美子氏：多機能型障害児通所支援事業「みかたっこ」を開所。
- 上記より、結果的に1社の事業者が事業拡大を達成し、新規起業2名が雲南市に誕生した

領域Ⅰ-2. 起業家・事業家が育ちあうコミュニティづくりの組成運営

企業、起業家、市民等多様な主体が参画し、立場、役割などの垣根を超え関係性を構築することで、互いに学び合い成長するためのコミュニティ組成を目的とした。50名以上の参加者の間で、事業プラン検討や地域内外の連携を生むこと、また地域経営カレッジとの連携による地域の志ある若手人材の発掘を目標とした。

コミュニティ参加者	事業プラン検討	連携先(地域内/外)	若手人材発掘
54名 ^{※1}	13件	21/23	5 ^{※2}

※1 LINEオープンチャット参加者及び複数回協議を重ねたチャレンジャーの合計
※2 地域経営カレッジに参加した40歳代以下の若者の数

領域Ⅰ-2 ① 起業家・事業家のつながり・連携のコーディネート

本セクションでは、以下の取り組みを行った。

- A) 地域連携プロジェクトの組成（地域住民の課題に対して、幸雲南塾やスペチャレ関係者とともに解決策を検討・提案する協議） 9案件
- B) 勉強会 4件
- C) 情報交換 4件
- D) 支援者間の会議 1件
- E) スペチャレ候補案件の発掘
- F) 渉外（地域課題解決のための人材・企業との意見交換やネットワーキング）

上記20の取り組みそれぞれについて、最大で20回程度、最小で2回の協議の場をもった。

領域 I -2 ② Seed ～起業型地域おこし協力隊による生態系強化～

- ①公募における企画・コーディネート
- ②申請書のブラッシュアップ
- ③Seedゼミのコーディネート
- ④Seedプラン発表会に向けた伴走及び運営補助

- 先述のような起業家等のコミュニティを豊かにし、スペシャレ・ホープへの申請者を増やしていく上で、**雲南市外から「雲南で挑戦したい」という人材を獲得する必要**が見えてきた。そのため、雲南市として初めて起業型地域おこし協力隊の公募を実施することとした。
- おっちラボはこの募集・選考のプロセスにおいて応募者の伴走支援を行った。

領域 I -2 ② Seed ～起業型地域おこし協力隊による生態系強化～

- 公募に対し7名（うち推薦4名）から応募を受け、そのうち4名（うち推薦3名）を書類選考通過とした。
 - Oさん: 未利用バイオマスを用いた地域供給エネルギー構築
 - Nさん: 雲南地域商社立ち上げ
 - Yさん: Guesthouse Ikiru
 - Oさん: リトリート体験をフックとした関係人口創出
- ③seedゼミのコーディネートの詳細：
選考会前の事業プランブラッシュアップを目的として、
書類選考通過者が雲南市を訪れフィールドワークをする「Seedゼミ」を実施した。
各人の申請時のプランは以下のとおり。
- 3月21日（火）に選考会を実施し、Nさんが最優秀賞を獲得した。
（R5.5時点でNさんを含む2名をR5年度に協力隊として採用見込み）

領域Ⅰ-4. ローカルベンチャー協議会の雲南ローカル事務局業務

(1)ローカルベンチャー協議会の概要及び目的

地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指した協議会である。雲南市は、雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み、雲南市で起業する都市部人材の確保、コーディネーター力の育成の改善につながると考え、参加している。

(2)令和4年度の取り組みと成果

- 今年度は、昨年度に引き続き、雲南市のまちづくりにおける空白地帯に近かった「山林空間の活用」という分野で変化を生み出すために「**森あそびラボ**」というテーマで**全国のプレイヤーとネットワークを構築**した。このテーマでの探求をする事務局・リサーチメンバーとして、協議会の提供する機会を通じて6名の副業人材を獲得できるなど、雲南を支援する人材の層が厚くなった。
- 他方、雲南で起業する人材の獲得にはつながっておらず、今後協議会と連携してより効果的な獲得チャンネルを模索していく必要がある。

領域Ⅰ-4. ①「森あそびラボ」全国での学び合い

「森あそび」をテーマに、ピッチ&ブレインストーミングをオンラインで開催する「森あそびBeyondミーティング」や、山主、プレイヤー、行政、中間支援組織、民間企業等が混ざり、オープンな議論を行う「地域別戦略会議」を実施した。※活動費として内閣府の関係人口創出補助金を活用

各地域のプレイヤーや自治体関係者のほか、森遊びに関心を持つ企業、大学生、他地域のプレイヤー、プロボノ人材等が幅広く参加し、商品・サービスの開発や連携協働に向けた議論が活発に行われ、地域における森林空間活用に関する具体的なアイデアの創出と実現への第一歩につながった。

領域 I -4. ①「森あそびラボ」全国での学び合い

◎主な活動内容

1. Beyondミーティング（オンライン開催）
 - ・ 9月23日：登壇AO4名、参加者41名
 - ・ 1月24日：登壇AO4名、参加者24名
2. 地域別戦略会議
 - ・ 7月29～30日：岡山県西栗倉村、参加者22名
 - ・ 10月6日：北海道厚真町、参加者のべ47名
 - ・ 12月16～17日：島根県雲南市、参加者11名
 - ・ 2月18日：島根県雲南市、参加者6名
3. 先進地視察
 - ・ 9月5～7日：長野県白馬村、参加者9名
 - ・ 11月3～5日：岐阜県郡上市、参加者12名
4. オンライン勉強会
 - ・ 8月24日：白馬事前勉強会、参加者11名
 - ・ 10月18日：郡上事前勉強会、参加者8名
 - ・ 12月 8日：雲南事後勉強会 参加者8名
 - ・ 12月14日：雲南事後勉強会 参加者8名

◎気づきや今後の課題

1. 参加者や地域の声
 - ・（Beyondミーティング）山が好きという人が集まっているため、「今度一緒にやろう」という連携協働の話につながりやすかった。
 - ・（地域別戦略会議）学びながら環境に飛び込むこともできる。感度の高いアーリーアダプターやアップーミドル層との接点を、皆さんと一緒に仕掛けられたらいいなと思った。
2. 事業を通じて得られた気づきや知見
 - ・「森あそび」と銘打つことによって林業だけではなく教育、食、工芸など、**さまざまな分野に関心ある人が混ざり合う機会をつくることができた。**
 - ・森あそびにおいても、**各コンテンツへの参加者が、自然とSNS等での発信者に回りたくなる魅力づくりが必要**であると感じた。

領域 I -4. ②雲南での森あそびコンテンツ開発

雲南の地域資源かつ森林の恵みであるたたらを軸にして
「企業人が創造性を取り戻していく」ための企業研修を目指し
モニターツアーを実施した。 ※観光庁補助金を活用

- ツアー内容は以下のとおり。11名のモニター参加者を集めた。
Day1 出雲大社～神楽体験（きすき健康の森）～たたら操業見学
Day2 たたら操業見学～菅谷たたら山内～鉄の歴史博物館～ジビエBBQ
Day3 八重滝散策～奥出雲葡萄園
- モニターツアーの様子がキノマチウェブに掲載されました。<https://kinomachi.jp/5075/>
- モニターツアーの様子を動画にしました。「雲南もり旅」で検索できます。
<https://www.youtube.com/watch?v=3YbdISFMnxk>

領域Ⅱ-1 地域経営カレッジ伴走支援

(1)波多地区の伴走支援

18回 ミーティングを実施
(4月~12月まで)

(2)日登地区の伴走支援

10回 ミーティングを実施
(7月~3月まで)

(1)波多地区の伴走支援

主な成果としては波多地域経営カレッジメンバーの発表資料の作成のサポートを行い、地元で若い出身者が波多の秋祭りを復活させる取り組みについて地域理解を促進させてこと、そして、実際に現地波多にて秋祭りの実施をサポートし、その取り組みを映像作品に収める取り組みのコーディネートを行った。

(2)日登地区の伴走支援

主な成果は多世代・特に女性を中心として日登のビジョンや、実際に何がやってみたいかなどこれまでなかった言語化する機会を作り上げたこと、そこから令和5年度から取り組むべき事業内容の整理ができたことである。

領域Ⅱ-2. 遊休資産のコモンズ化(地域運営組織2.0)

- ① 地域の遊休資源のリサーチ
- ② 地域資源循環スキームの検討
- ③ モデル地域候補でのプロジェクト組成

➤ 地域に眠っている資源（預貯金・不動産・社会資源等）を地域の課題解決のために循環させる仕組みを構築することを目的として、以下の取組みを実施した。

① 地域の遊休資源のリサーチ

市内各所の郵便局、交流センター、市民団体、森林組合等14カ所をめぐり、山林・田畑・空き家の集約可能性と方法論について情報を収集した。

領域Ⅱ-2. 遊休資産のコモンズ化(地域運営組織2.0)

② 地域資源循環スキームの検討

リサーチを踏まえ、放置された家・畑・山を地域社会のコモンズにして住み続けられる地域へと変えるスキームの検討を行った。「地域運営組織2.0」というコンセプトで論じている。

③ モデル地域候補でのプロジェクト組成

スキーム仮説をもとに、地域から山林等集約化の要望が上がった**久野地区において、住民を交えて、集約化とその活用計画を立てる協議を重ねている。**

まず雲南市林業畜産課より里山整備補助金を得ることを目指し、久野地区内の一定範囲の山林の所有者を登記簿で確認し、同意を得る作業を進めている。その際、地域の山林の状況を可視化するツールとしてGISを用いた山林マップ（画像参照）を作成し、住民に提供している。

同時に、同地区に住む幸雲南塾卒業生の舩木海氏とともに集約予定地の現地踏査、集約後の活用法の検討を進めている。

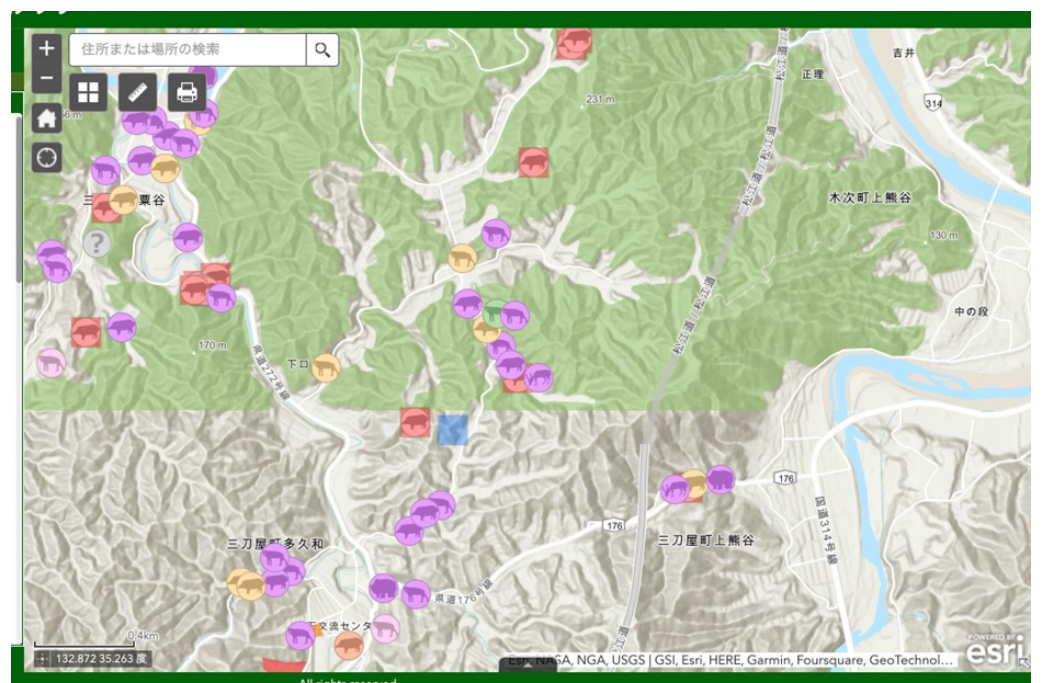
領域Ⅲ 地域資源・課題データ可視化支援

◆ねらい

- 里山に関する課題や資源のデータをGISを活用してWebマップ上に可視化することにより、地域資源を地域で管理するきっかけをつくる。※事業再構築補助金を活用

◆ 2022年度の到達点

- ケモナビ実証実験開始し、地域から一定の有用性評価。鳥獣被害防止につながらないと関心が薄れるおそれがある。
- 雲南市から地形・地籍データの提供を受け対象地域の協議に活かせる山林マップを作成。森林組合と協議し立木のデータの取り込みも目指していく。



▲ケモナビ画面